

## 山崎 純一

Interviewer  
進研アドBetween編集長  
長田雅子

豊かな人間性を備えた  
人材を育成するために  
多くの機会を提供したい

就任直後から持ち前のフットワークの軽さを生かし、70人の教員との面談、東京都大田区との連携協定、海外の大学との学術交流協定などを次々と進めている山崎純一学長に、育てたい学生像や教学改革にかける思いを聞いた。

### 教員との面談を通して 大学の魅力を再認識

長田 学長に就任されて約1年が過ぎました。ご経歴とこの1年間のお取り組みを教えてください。

山崎学長(以下山崎) 私は東邦大学医学部を卒業してから学長に就任するまでの37年間、本学付属病院の循環器内科で教育・研究・臨床に携わってきました。本学は医学部・薬学部・理学部・看護学部の4学部を擁する自然科学系総合大学です。就任後は、学長として幅広い見地に立って、大学の発展に貢献していかなければならないと考えています。

医学部と看護学部のある大森キャンパスと、薬学部と理学部のある習志野キャンパスは、4学部共通教育を通して連携しています。しかし、習志野の先生方がどのような研究をなさっているのか詳しくはわかりませんでした。そこで、薬学部と理学部の教育・研究を理解することが学長1年目の仕事と考えました。就任直後から両学部の先生方と1人30分間の面談を行い、1年間で70人の教授の教育・研究活動について話を伺いました。今年は全ての准教授、講師および助教まで含めた教員と会うつもりです。

面談を行う中で、教育や研究にかける情熱にたびたび心を打たれ、本学の素晴らしさをあらためて認識できました。さまざまな教員と交流できるのは学長の特権かもしれません。チャンスを得たと思っています。教員の個性や魅力的な教育・研究の内容を把握できたので、これらの人的資源を生かして、学部を超えた連携・交流をさらに進めたいと考えています。

### 喫緊の課題は 学部間・学生間の交流

長田 貴学の教育の特色について教えてください。

山崎 本学の建学の精神は「自然・生命・人間」で、社会に貢献するために欠かせない人間性の涵養を何よりも重視しています。教育の理念にも「豊かな人間性」を掲げ、その実現のための教育プログラムを構築しています。

例えば、医学部には、準備教育として人間関係や生命・医療倫理について学ぶ「人間性教育コース」を設置しています。人間性を高めるための教養教育も重視しており、看護学部には音楽、美術、演劇などの7講座から1つを選択する「文化講座」を設けています。また、生活インフラがない場所での自然体験学習、坐禅を体験する日本文化研修などもあります。

学生には、医師や看護師、薬剤師などの国家資格を取得するだけでなく、プラスアルファの知識や教養、つまり、人間性を備えた職業人をめざしてもらいたいと考えています。そのためにも、学部間・学生間の連携や交流が必要なのです。

長田 連携や交流を行う意義と、具体的な方法についてお聞かせください。

山崎 チーム医療の重要性が叫ばれる現在、医療の現場では協力し合うこと、互いを尊重することが求められています。そうした医療従事者を育成するために、異なる学部の学生同士が日常的に交流する場を設けることは非常に重要です。本学の2つのキャンパスは離れているため、学生同士が行き来するのは簡単ではありませんが、すでに4学部の学生を集めて討議させる

2泊3日の「チーム医療演習」を実施しています。当初は、今の学生は、宿泊研修のような濃密な取り組みには消極的かと予想していましたが、希望者が多く、参加学生には非常に好評です。

また、2012年度に私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択されたことにより、大森・習志野キャンパスを結ぶ双方向通信システムを整備しました。習志野の学生に、大森の教員が講義を行うといった、物理的な距離を超えた学部連携をさらに活性化していく予定です。

今の若者は内向き志向が強く、あまり国外に目を向けませんが、留学経験者に自身の体験を語ってもらい、他の学生に刺激を与える取り組みは、一定の効果を挙げています。

最近、わが国では、大学に合格さえすれば満足だという学生も多いように感じられます。現状に安住せず、向上心を持ってもらいたい。所属の学部や大学の外、さらには国外にも視野を広げれば、さまざまな可能性や人生の方向性を見いだせるはずですよ。

見識を広げ、客観性と人間性を身に付ける。それは、社会人として生きていくうえでかけがえのない経験になります。そのために必要なあらゆる機会を提供することが大学の使命であり、学長としての私の仕事だと考えています。

より多くの学生に機会を与えるために、2013年度から医学部の学納金の大幅減額にも踏み切りました。付属の3病院は着実に「選ばれる病院」への成長を遂げており、収益を上げています。教育の質を下げることなく、学生の経済的な便宜を図り、「選ばれる大学」をめざす方針です。



やまさき・しゅんいち 1950年生まれ。1976年東邦大学医学部卒業、内科学第一講座入局。同講座教授、大森病院副院長、同病院長、大学理事、大学医師会会長を経て、2012年7月から現職。東京都医師会勤務医委員会委員長、日本心臓核医学会理事長を歴任。専門領域は循環器内科。

### 世界に開かれ 地域に貢献する大学へ

長田 東邦大学は2015年に創立90周年を迎えます。どのような大学像を打ち出していくおつもりですか。

山崎 女子教育、女性研究者の育成により力を入れていきます。本学はNHKの連続ドラマ「梅ちゃん先生」で、主人公が通う学校のモデルとなった帝国女子医学専門学校を前身としており、古くから女子教育の充実や女性の職場環境の改善に取り組んできました。今も学生の49%は女子です。

2009年度には、科学技術振興機構の女性研究者研究活動支援事業に採択されたことを契機に、男女共同参画推進室(現・男女共同参画推進センター)を整備し、子育てや介護のための短縮勤務を可能にする准修練医制度の導入、病気の子どもを受け入れる病児保育室の充実などに取り組んできました。今後も女性が安心して学び、働き続けられる環境づくりを進めます。

国際交流も進めていきます。開設4年目を迎えた国際交流センターでは、海外の大学と学術交流協定を積極的に

締結しています。私が学長に就任してからは、モンゴル国立大学や中国の河南科技大学など、数校と協定を結びました。

地域との交流も推進します。大森キャンパスが立地する東京都大田区は町工場が多い地域です。地元企業が本学の施設・設備を活用し、医療機器の分野で新製品を開発できるよう、2013年4月に区と医工連携の協定を締結しました。現在、地元企業が開発した血圧計関連の機器について、実用化に向けたデータ分析を行っているところです。付属の3病院も地域の病院や診療所との連携を進めていきます。

長田 新たに看護学科を開設する予定だと伺っています。どのようなお考えに基づく構想なのでしょう。

山崎 千葉県佐倉市の佐倉看護専門学校を2017年度、新学部の看護学科に改組する予定です。看護の高度化や千葉県における慢性的な看護師不足に対応したいと考えています。新学部の設置は習志野キャンパスの活性化につながると思います。こうした取り組みを通して、地域に貢献する大学の役割をより強めていきたいと考えています。